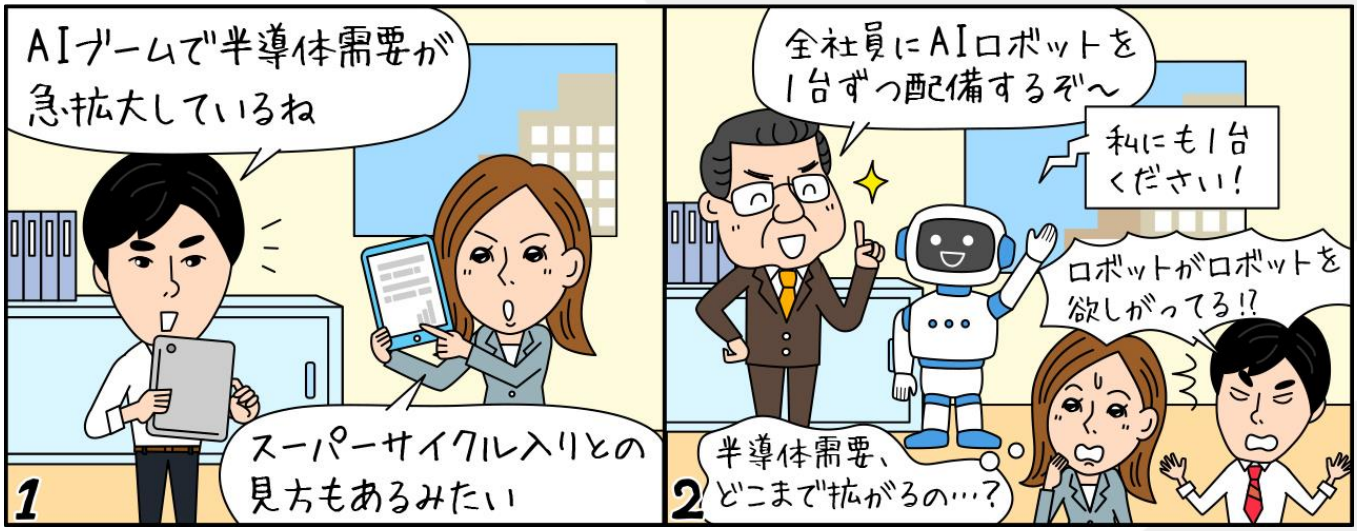
シリコンサイクル





アモーヴァ・アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

今回のテーマ　AI時代の「シリコンサイクル」

「産業のコメ」と呼ばれ、私たちの暮らしを支える半導体は、近年、AI（人工知能）の普及を背景に、その存在感をさらに高めています。

今回は、半導体市場に繰り返し訪れる「シリコンサイクル」と、AI時代に起きつつある市場の変化について考えます。

「シリコンサイクル」とは

「シリコンサイクル」とは、半導体の需給バランスの変化によって、業界が好況と不況を繰り返す景気循環のことです。過去には、おおむね3～4年の周期でみられました。

半導体市場では、技術革新などをきっかけに需要が急増しても、生産設備が十分に整っておらず、すぐに供給を増やすことができない場合があります。また、半導体メーカーなどが需要に応えるため設備投資を進めたとしても、生産能力が拡大するまでには時間がかかります。そのため、生産能力が拡大するまでに需要が落ち着くと、増加した供給が需要を上回り、半導体価格が下落します。こうして、需給のひっ迫による好況期と、供給過多による不況期が繰り返されます。この一連の循環が「シリコンサイクル」です。

過去を振り返ると、パソコンやインターネット、スマートフォン、そして近年のAIなど、その時代の新たな技術が需要を生み出し、半導体市場の長期的な成長をけん引してきました。このため、半導体市場は、短期的な

ステップアップ

半導体には、ロジック半導体やメモリ半導体、パワー半導体などさまざまな種類があり、それぞれ機能や用途が異なります。そのため、半導体市場全体が同じ動きをするわけではなく、種類によって需要動向や市場環境が異なる場合があります。



（次のページへ続きます）

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。
当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

好・不況を繰り返しながらも、長期的には市場規模を拡大してきました。こうした循環を踏まえると、半導体市場をみる際には、目先の需給だけでなく、技術革新や社会環境の変化がどのような局面にあるのかを捉えることが重要です。

AI需要と半導体スーパーサイクルの行方

近年の半導体市場について、通常の景気循環を超えて好況期が続く「スーパーサイクル」入りしたとの見方もあります。こうした見方を支えているのが、AIの目覚ましい進展です。その進展は、文章や画像を生成する生成AIから、複数の工程を自律的に進めるAIエージェント、ロボットや自動運転などを通じて現実世界に働きかけるフィジカルAIへと拡がりつつあります。

こうしたAIの進展や普及に伴ない、求められる半導体の種類や用途も多様化しつつあります。必要となるのは、AIの演算を担うGPU（画像処理装置）などの高性能半導体だけではありません。大量のデータを読み書きするメモリやデータ通信に不可欠な通信用半導体、電力を変換・制御するパワー半導体、周囲の情報を取得するセンサーなど、さまざまな半導体がAIを支えます。

これまで、パソコンやスマートフォンなどの普及が半導体需要を押し上げてきました。しかし今後は、自動車や工場、医療機器、ロボットなど、幅い分野にAIが普及し、半導体需要の新たなドライバーになると考えられます。さらに、AIによる計算処理をデータセンターだけでなく、端末や機器側で行なう「エッジAI」が進展すれば、半導体需要の裾野はさらに拡がります。また、AIは開発・学習段階だけでなく、導入後の利用時にも計算処理を必要とします。利用が拡がるほど、計算能力を支える半導体の需要も継続的に高まる可能性があります。こうした点は、製品の普及が需要を押し上げてきた従来の構造とは異なる特徴です。

もっとも、AI需要が拡大しても、半導体市場に内在する需給変動や短期的な景気循環がなくなるわけではありません。加えて、需要動向や成長度合いは、製品や用途によって異なります。半導体市場が今後も拡大を続けるのかを見極めるうえでは、AIの活用領域がどこまで拡がるかに加え、それに伴なう半導体需要がどの程度持続するかを見定めることが重要です。

ステップアップ

WSTS（世界半導体市場統計）によると、世界の半導体市場は、2025年の約7,960億米ドルから、**2026年には約1兆6,550億米ドルに拡大すると予測されています**（2026年8月時点）。AI向け需要などを背景に、メモリや、GPUを含むロジック半導体が成長をけん引するとみられます。



半導体市場の動向をみるうえでは、目先の需給だけでなく、成長を支える技術や用途の変化にも目を向けることが大切ですね。今後、どのような技術が半導体の活躍の場を拡げていくのか、目が離せません！



2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。
当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。